

## コロンビア大学の日本研究

バーバラ・ルーシュ（コロンビア大学）

簡単にコロンビア大学における日本研究について概略を述べさせていただきます。

御承知のようにアメリカの大学の制度は、日本の大学の制度と随分違っていて、一番有名な権威のある大学は国立ではなくって、私立です。研究のために政府からお金をいただけるのは非常に限られています。学生の学費でまかなえるのは二割にもなりません。だから大学を経営するお金の殆どは、企業や卒業生の寄付からくるわけです。こういう限られた財源で、日本文化というかなり特殊な研究をすることは、大変難しいことでございます。

たとえばドナルド・キーン先生が退職なさってしまうと、大学の方で日本文学や日本語の習得とか日本文化についての講座は必要でないと判断されて、今までキーン先生の教えていた日本文学の講座を取りやめにして、その分のお金を日本経済とか日米貿易、政治学、ハイテクなどの研究の方にまわしてしまう可能性が大いにあるのです。具体的な問題から説明しますと、一般的なアメリカ人にせよ、権力のあるアメリカ人にせよ、とにかく米国人にとっては、日本は膨大な経済力を持っている国であるというイメージがあるわけですが、同時に世界から孤立している国のような印象もあるわけです。ヨーロッパ・アフリカ・中南米・中東、そしてアジアからの、有名な学者や作家、評論家、政治的あるいは宗教的な指導者などが毎日のようにアメリカのテレビに出て来て、それぞれ

の国について論じたりしているわけですが、日本の場合はそういう外国で活躍している有名人がなかなかいないので、アメリカでとりあげられる日本関係のニュースは貿易摩擦のことばかりというのが現状なのです。

このような例でもわかるように、日本の文化的な面はアメリカでは無視されがちな傾向にあるわけです。われわれ日本学の学者や教育関係者はこの問題をいつも念頭において教育課程を作らなくてはなりません。この非常に難しい問題を解決するためには、大学の学部とは別に、独立した資金で運営される日本文化研究のための機関が必要である、という考えをもとにドナルド・キーン日本文化センターが計画され、設立されたわけです。

我々学者は日本を世界の中に位置付けて、その中で理解を深めていく必要があると強く感じているわけですから、いつも専門的な目的のためだけに研究したりその発表を行ったりするのはよくないと思います。このままでは、日本は永遠に今の孤立した状態を保っていくのではないかと同時に今、何か非常に具体的な行動が必要なのではないかという気がします。

大学や日本研究機関と外国の一般市民の間に橋をかける義務が、我々学者にはあるのではないかと、そうしたことで問題解決の足掛かりをつくる必要があるのではないかと思うのです。

とにかくコロンビア大学における日本研究というのは、人文・社会科学などの分野で行われているわけですが、次の世代の日本研究専門家を養成し、さまざまな研究プログラムを推進すること、また一般の学生の間に日本についての知識を広めることを通して日米相互の理解を深め、両国の関係をより良いものとする大きな助けとなるよう努めるのが主な目的となっています。コロンビア大学の日本研究活動の規模とその人材

は、アメリカ的な言い方かもしれませんが、国際的に高く評価されているようです。具体的なことを申し上げますと、コロンビア大学の日本研究は1920年代の後半からの伝統があります。ジョージ・サムソン卿をはじめ、角田柳作教授、ドナルド・キーン教授、アイバン・モリス教授、エドワード・サイデンステッカー教授、テオドール・ド・バリール教授、ハーバート・パッシン教授、ジェラルド・カーチス教授、ヒュー・パトリック教授などによってこの伝統が受け継がれてきました。古典文化と現代文化の両研究分野において、著名な教授がたくさんおりまして、現在、文学、歴史、政治、経済、文化人類学、社会学、美術、宗教、法律、ジャーナリズム、ビジネス、などの幅広い分野にわたって日本研究が行われております。コロンビア大学における主な研究機関をあげてみますと、以下のようになります。

東アジア研究所：1949年に創立され、現在の所長はジェラルド・カーチス教授。現代日本・中国・朝鮮半島、そして環太平洋地域についての研究を推進する中心的な機関です。大学院生の教育や歴史、政治、経済の分野にわたる資料収集なども行われています。

東アジア言語文化学部：ポール・バーリー教授が学部長を務めています。中国・朝鮮半島・日本についての人文科学研究の中核となっている学部です。日本古代や中世の歴史から、文学、哲学、宗教、美術、考古学、文化史などの諸分野にわたり、人文科学系の研究者の養成を主な目的としていますが、専門家だけではなく、一般学生の教育も重視しています。さらに、集中的な日本語教育もこの学部で行われています。

日本法律研究センター：大学院の法律科の中にあり、マイケル・ヤング教授を所長としています。法律家（弁護士）を目指している学生の為の、日本の法律関係のカリキュラムなどのほかに、ビジネス関連の法律についての研究プロジェクトも行っています。

日本経済経営研究所：ビジネス・スクールの中にある機関で、ヒュー・パトリック教授を所長として1986年に設立されました。主な目的は、アメリカの経済界、学会および政界における日本の経済への理解を促進することです。研究所では金融と経営に焦点を当てながら、新しい講座やさまざまな研究プロジェクトを生みだしてきました。金融、ビジネス界のリーダー、米国政府関係者と学者を集め、対話を通じて日本の経済と経営に関する理解を深めることを目的とする政策研究会議の開催なども行われています。

トヨタ研究プログラム：トヨタ財団の寄付によって設立されたプログラムで、現代日本の政治経済と外交問題、および日米関係についての総合研究プログラムとなっています。主な活動として、トヨタ・ゼミナールと、トヨタ研究会議があり、日米関係における重要問題についてニューヨーク地域のビジネスマンとコロンビア大学の教授や研究員の間の討論の場としての役割を果たしています。

環太平洋プロジェクト：ジェームス・モーレイ、ヒュー・パトリック両教授の指導の下に開設された、東アジア研究所と日本経済・経営研究所共同の、太平洋地域に関する新しいプロジェクトです。このプロジェクトは太平洋地域における日本と米国の

指導的な役割と、環太平洋各国の経済と安全保障問題に焦点をあて、それぞれの地域から研究者を集めて新しい講座や研究プログラムの開発に取り組んでいます。

中世日本研究所：これは私が所長を務めております研究所で、今まで関心の薄かった日本中世の庶民文化に関する研究を助成する目的で、国際的な研究活動を行っています。ペンシルバニア大学にて創立されましたが、1984年にコロンビア大学に移されました。奈良絵本や絵巻など、中世の絵入り本をマイクロフィルムやカラースライドの形で保存したり、平安末期から江戸初期にいたる500年間の人文的研究を推進することを目的としています。1987年10月には、「全アジアにおける絵解き」に関する国際集会を主催し、また、最近では、「日本女性と仏教」に関する研究プロジェクトを行っており、1989年に同テーマで国際会議を開催しました。

日本ジャーナリズム・プログラム：東アジア・ジャーナリズム・プログラムの一部で、ジャーナリズム・スクールと、東アジア研究所の共同プログラムとなっています。日本の報道機関での一年間の研修留学制度を持っており、日本への特派員の養成を主な目的としています。また、プログラムの一環として日本のジャーナリストをコロンビア大学に招聘する活動もしております。

C. V. スター東アジア図書館：ここではあまり細かいことは申し上げられませんが、この図書館は日本語で書かれた文学・歴史・美術・宗教に関する文献資料約20万冊の蔵書に加えて、日本国外では他にみられない政府公文書、政治資料、あるいは日本

の企業・金融機関の出版物なども多数そろえています。その他にも法学図書館やビジネス・スクール図書館に、それぞれの専門内で日本関係の資料が所蔵されています。

ドナルド・キーン日本文化センター：欧米における日本文学のもっとも優れた学者であるドナルド・キーンの名前を冠して1986年に設立されたセンターです。古典から現代に至る日本文化の研究において指導的な役割を持つ学術研究センターとして活動することを目的としています。このセンターでは、政治、経済や、経営まで含めた「日文研」とは違い、「文化」の定義をいわゆるヒューマニティに限り、現在、アメリカの大学ではあまり重要視されていない日本文学・評論・歴史・宗教・美術・映画・演劇といった方面に力を入れた活動をしています。また、活動の一環として、研究者、芸術家、作家、評論家などを日本から招聘する計画もありますが、寄付金の募集など、資金的な面で苦勞しております。

だいたい現在はこのようになっておりますが、今アメリカの大学は重要な転機にさしかかっているのではないかと考えられます。最近、貿易摩擦などのためにアメリカにおける日本研究はどちらかというと政治経済関係に偏っており、日本に関する全ての知識の基礎である言語や文化の研究は、若干おろそかにされているように思われます。さきほどの集会にて、「どうして欧米では日本文化関係の博士になる人の数がそんなに少ないのか」という質問がでてきたのですが、その答えとして、奨学金の非常に少ないことが重大な理由のひとつとしてあげられると思います。例えば、一年間コロンビア大学の大学院で日本関連の課程をとると

して、学費、寮費、生活費をふくめて一人当たり 257 万円もかかります（編者注・1988 年当時の金額）。普通の学生は、奨学金なしではとても博士課程まで進むことは考えられないわけです。このような現状は日本ではあまり知られてないようです。

このように、新しい世代の研究者を育てるのが難しい上に、ドナルド・キーン教授に代表される世代の人文科学系の研究者の方々が、今や定年にさしかかっているということで、アメリカの大学では大変な問題になっています。日本研究を将来に向けて継承していく中心となるべき研究者の養成が我々にとっての急務であると考えられています。

このような状況の中で、コロンビア大学ではドナルド・キーン教授の業績を讃え、またその業績を永続させるためにドナルド・キーン日本文化センターを設立することになりました。このセンターの活動は寄付によって支えられているわけですが、実際の運営は寄付金の利子が資金となっています。利子を運用することで、文化、美術、宗教などの研究活動や教養講座の支援を永遠に続けられるようになっているわけです。

センターでは孤立してる日本の作家、評論家、芸術家の中から、アメリカの社会に刺激を与えられるような人を大いにコロンビア大学に招待して、そういう人たちの考えていること、書いていることをアメリカのインテリ周辺にもっと知られるように努力していく予定です。

このような活動は普通の大学の学部ではなかなかできないことです。西洋でこういった活動をする組織はほかになかなかないようです。今のところドナルド・キーン日本文化センターは設立されてからまだ日が浅く、未だ完成の域には達していませんが、それでも、新潮文学振興財団から 1 億 9000 万円、そしてメロン財団から 6250 万円の寄付をいただき、コロンビア大学に新潮日本文学教授職を設置することができるよう

になりました。

また、1987年には、裏千家から7000万円をいただきまして、それを基金とした利子でニューヨークで大きな講演会を開催することをキーン・センターで始めました。現在の裏千家家元のお名前をいただいたこの十五代目千宗室公開講演会は、毎年日本文化の様々な分野で活躍中の方々を招聘して開かれるものです。第一回として、1988年度は十五代目千宗室先生御自身による「茶の心」という講演が行われました（翌1989年、第二回講演会は、作曲家武満徹氏による「西の音・東の音」）。

もうひとつは、今世界では「貿易のアンバランス」でいろいろと問題がおこっていますが、「翻訳のアンバランス」というのも大変な問題です。日本では世界中からいろいろなものが翻訳されてすぐに入ってきますが、アメリカでは一般には日本文学の翻訳はあまり知られていません。キーン・センターでは、このアンバランスを解消するための活動をいくつか始めようとしています。そのうちのひとつが、1987年からセンターで行われている日米友好基金日本文学翻訳賞で、これはアメリカ人の翻訳家のための日本文学の英訳コンテストのようなものです。1987年度の授賞作は、ウィリアム・フラス教授による、島崎藤村の『夜明け前』の翻訳でした。1988年には、キャロル・アポロニオ・フラス教授による、木崎さと子の小説『青桐』と『裸足』の翻訳に賞が贈られました。

以上にあげた活動の他に、1987年にセンターによって、コロンビア大学を代表する日本語教育の指導者である白戸一郎先生の名前をいただいた白戸一郎日本語教育基金ができました。この基金は教室外の補習に力を入れることと、ビデオや映画など、新しい教材を使うことで、日本語の教育をさらに推進していくために運用されています。

話が随分長くなってしまいましたが、以上でコロンビア大学の日本研



究についての紹介を終わらせていただきます。

(1988 年 3 月)

## 追記

ドナルド・キーン日本文化センターの、1988 年以来現在までに新しく加わったプログラムは次の通りです。

オリエントコーポレーション・アジア文化基金：当基金は 1989 年、オリエントコーポレーションから贈られた 100 万ドルを基に設立され、主に毎年コロンビア大学院修士課程で日本文化を専攻する優秀な学生への奨学金として運用されています。さらに客員教授、芸術家の招聘、シンポジウム、展覧会の開催、そして文献の購入などにも使われる予定です。

北斎浮世絵プロジェクト：国際交流基金の後援によりベニス大学のカルザ教授の主催する北斎浮世絵プロジェクトでは、現在北斎の作品といわれている浮世絵の鑑定と、米国のコレクションに収められている北斎の全作品のカタログ作成を行っております。日本の画家の中でも北斎は最も贋作の多い画家といわれており、日本美術研究の専門家のあいだで北斎作といわれている作品の正しい鑑定を行い、贋作をも見分けることが大きな課題となっている今、このプロジェクトの果たす役割に多くの期待が寄せられています。

米日財団の後援による現代日本文学の翻訳プロジェクト：1989 年、現代日本文学の翻訳をシリーズ化してより多くの英語圏の読者に向けて出版すべく、米日財団からドナルド・キーン日本文化センターへ、日本文学翻訳プロジェクトのための奨励金が

出されました。現在この翻訳プロジェクトにおいて当センターは、主に翻訳者と出版社の仲介としての役割を果たしており、同時に、翻訳に値する現代文学作品のリスト作成も進めています。このシリーズで翻訳および出版される作品は全てドナルド・キーン日本文化センターが監修致します。

ビデオコレクション：1990年に創設され、日本関係の特集番組、ドキュメンタリー、民族学的フィルムなどのビデオの収集とカタログ作成を主におこなっています。将来はコロンビア大学の研究者および学生の為だけにとどまらず、研究のための視覚資料センターとして、地域的、あるいは全国的に利用されるコレクションに育てていく予定です。